

## 考古学若手研究会 2020 第 2 回研究発表会 要旨

## 第 2 回研究発表会

日程： 2020 年 11 月 7 日（土）実施

場所： Zoom

## 発表 1

## 「考古資料の形を“はかる”方法 - これまでの歩みとこれから -」

舘内魁生<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 東北大学大学院 文学研究科

考古資料の形や大きさを適切に記録し分析することは、考古学の最も基本的な行為の 1 つである。これまでも、伝統的な方法から 3 次元計測まで様々な方法が開発されてきたが、より適当な方法を選択するためにはその方法が開発されてきた経緯を知ることが重要であろう。本発表では考古資料の形を捉える方法の展開を学史として俯瞰しつつ、各手法の特性を明らかにするとともに、考古学者がどのような問題意識をもって形の分析を行ってきたのかを議論する。

## 発表 2

## 「弥生時代前期末から中期前半の土器にみられる小地域化のプロセス

## - 瀬戸内地域の甕を対象として -」

加治木智也<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 今治市教育委員会

弥生時代前期末から中期中葉前半の甕を対象に小地域化のプロセスを検討した。甕の器形・文様・外面調整の 3 属性を分析し、その時空間的変異を検討した。その結果、中期前葉に瀬戸内地域内で土器の小地域化が最も顕在化することを明らかにした。また、分析には、楕円フーリエ解析など統計的手法を採用した。

主催： 考古学若手研究会 2020（実行委員：中川朋美（南山大学 博士研究員）、ジョセフ・ライアン（岡山大学 特任助教）

共催： 文部科学省 科学研究費助成事業 新学術領域研究（研究領域提案型）2019 年度～2023 年度「出ユーラシアの統合的人類史学 - 文明創出メカニズムの解明 -」A02 班・C01 班 南山大学考古・人類学セミナー「形ノ理：モノが語る物語」